

## Ⅱ 調査結果の概要

---

### 1 回答者の属性

回答者の70%以上が女性となり、国籍は、「中国・台湾」、「フィリピン」が多くなりました。また、在留資格は、「日本人の配偶者等」が最も多く、次いで「永住者」となりました。

### 2 普段の生活について

普段の生活で困っていることや心配なことを年齢別で見ると、20歳代は「言葉が十分に通じない」、30歳代は「文化や習慣の違い」、40歳代は「特にない」が最も多い回答でしたが、次に多かったのは「言葉が十分に通じない」と「外国人ということで差別を受ける」でした。60歳以上は「病院のかかり方」と「外国人ということで差別を受ける」となりました。

### 3 日本語能力について

市役所や病院での手続きなど、場面ごとに異なりますが、全体的に「読み書き」ができない結果となりました。

日本語の勉強していない理由で最も多かったのは、「日本語ができるから」でした。

また、学習時の希望は、「無料で学習できる場所」、「自宅や職場に近いところ」でした。

### 4 医療について

病院で困ったことや不安に感じたことは、「問診票等の記入」、「医師や看護師の説明を聞くとき」でした。

また、医療サービスとして希望することは、「無料の通訳」、「問診票等の多言語表記」でした。

### 5 市の支援について

市の支援事業で認知度が高かったのは、「日本語セミナー」でした。

市の広報紙やお知らせは、日本語が分からないので読まないと回答した方が多くなりました。また、市からのお知らせで多言語表記を希望するものは、「健康診断のお知らせ」、「広報いといがわ、おしらせ」でした。

外国人の方にも暮らしやすい糸魚川市にするために必要なことは、「多言語での情報提供」、「外国人同士が交流できる場所（があること）」、「日本語を勉強できる機会を増やす」でした。